

## 実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		富山国際大学			設置者名		学校法人 富山国際学園		
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成25年度)				
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
子ども育成学部	子ども育成学科	80人	幼一種免	平成21年度	76人	70人	63人	19人	
			小一種免	平成21年度					45人
入学定員合計		80人	合計		76人	70人	108人	19人	
備考	<p>・「学部・学科等の名称等」欄は、平成26年4月1日現在の名称・定員である。</p> <p>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。</p>								

大学名		富山短期大学			設置者名		学校法人 富山国際学園		
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成25年度)				
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
	食物栄養学科	80人	栄教二種免	平成17年度	86人	16人	0人	0人	
	幼児教育学科	80人	幼二種免	昭和42年度	87人	86人	0人	8人	
入学定員合計		160人	合計		173人	102人	0人	8人	
備考	<p>・「学部・学科等の名称等」欄は、平成26年4月1日現在の名称・定員である。</p> <p>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。</p>								

## 教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成26年12月10日（水）

実地視察大学：富山国際大学・富山短期大学

実地視察委員：横須賀薫委員、和泉研二委員

## 【全般的事項】

- 教員養成に関する教育課程及び教員組織等については、おおむね良好に実施されている。引き続き教員養成の水準の維持・向上に努めていただきたい。
- 地域密着型の養成課程としての実績をあげており、地域社会参加活動等、大学の取組を全国に発信していくことが期待される。
- 教育課程について「2.」で指摘するように、教職課程認定基準の観点からは是正すべき点を確認されたため、その点については、速やかに是正すること。

## 【個別事項】

## 1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

- 「地域における次世代を担う子どもの育成に資する優れた教員の養成」という教員養成に対する理念・構想を示しているが、それを具現化するための教職課程に対する全学的な組織、教育課程及び教員組織をより一層充実させるように努めていただきたい。
- 教職課程委員会は、実務指導が中心となっているため、教職課程に関する方針を検討する組織を大学の責任者の元に置き、教員養成に対する理念・構想を支えるよう努めていただきたい。その中でファカルティ・デベロップメント等を通じ、授業内容や授業方法の改善が進んでいくことを期待する。

## 2. 教育課程（教職に関する科目及び教科に関する科目）、履修方法及びシラバスの状況

- 大学における教員養成として、大学の学科等に置かれる教職課程は、各学科等の目的・性格と免許状との相当関係について審査の上、その学科等の学位プログラムとしての各科目内容と教育職員免許法施行規則に定める各科目内容の修得によって、教員としての専門性が担保されることが確認されて初めて認定されるものである。一つの学科等で幼稚園と小学校といった複数の異なる学校種の免許状、更には保育士資格、社会福祉士資格を取得可能とする学科等の状況が確認されたため、今後、コース履修等を検討するなど、各学校種における教員としての専門性を担保できるよう履修上の配慮・工夫を図っていただきたい。
- 「教職に関する科目」について、教育職員免許法施行規則第6条第1項表に定める「各科目に含めることが必要な事項」が含まれているか否か、シラバスからは判断できない授業科目や、科目の趣旨に照らして適切でないと見受けられる授業科目があるため、法令で扱うこととしている内容は必ず扱うとともに、科目の趣旨に照ら

して適切な授業内容となるように、内容を再度検討すること。なお、シラバスの記載内容及び記載方針を定め、法令に定める「各科目に含めることが必要な事項」が取り扱われているかどうかをシラバスの授業計画から確認出来るようにすること。

- 一部科目において、テキスト・参考資料の不足が確認されたため、シラバスへ追記すること。また、大学と短期大学でシラバスの様式が異なっているため、様式の統一を検討すること。

### 3. 教育実習の取組状況

- 全般的に学生の母校において実習されている状況が確認された。教育実習は、大学による教育実習の指導体制や、評価の客観性の観点から、遠隔地の学校や学生の母校における実習ではなく、可能な限り大学が所在する近隣の学校において実習校を確保することが望ましい。一定の地域において協力校を設けて、継続的に実習や教育見学を実施するなど、地域との協力関係を築き、実績を積み重ねていくことで、実習先の協力校は教育実習の経験を蓄積することができるため、大学は地域に密着した取組がさらに推進できるような環境を整備するよう努力されたい。

### 4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 相談対応を行うことができる教職員が常駐し、関連書籍が充実している教職支援センター等を整備し、教職指導体制をより充実させていただきたい。

### 5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 講義・演習のほか、富山の特色ある地域での活動に参加する「地域社会参加活動」は、活動報告を冊子として取りまとめ、教員及び学生同士が共有できる仕組みとなっており、優れた取組である。このほか、「富山に学ぶインターンシップ」において、教育、保育、福祉の実践現場で就業体験を行っており、地域と連携してボランティアを積極的に実施している状況が確認できた。
- 今後、さらに包括的に地域の教育委員会と連携し、集中的かつ継続的に地域との関係を構築していくことに期待する。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 幼稚園及び小学校の教員養成のために必要な施設が十分に備えられているとは言い難い。（例えば、体育館が大学と短期大学で共同利用となっている等。）既存の施設も有効活用しつつ、教職を志す学生が十分な指導を受けることができるよう、整備も含めた運用方法の検討を引き続き行っていただきたい。
- 図書についてはやや古いものが散見され、教科書の冊数が少ない状況が確認された。選書についても、教職課程に関する方針を検討する全学的な組織において、十分に議論された上で配架されるよう、体制について御検討いただきたい。なお、絵本は充実しており、地域にも開放されている点で評価できる。

7. その他特記事項

○特になし